

# 令和元年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業

## 活動報告書



[ R1.6 災害ボランティア週末合宿 ]



[ R1.7 災害と企業ボランティアセミナー ]



[ R1.11 いしかわ学生防災フォーラム ]

令和2年3月

実施主体：公益財団法人石川県県民ボランティアセンター  
学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

事業に関するお問い合わせ：

公益財団法人石川県県民ボランティアセンター

〔 石川県県民文化スポーツ部県民交流課 〕  
〔 TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363 〕

## 事業目的

石川県内の大学では、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。

こうした中、地域防災力の更なる向上のため、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内各大学や企業、NPO、県民ボランティアセンター、社会福祉協議会、日本赤十字社などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるきっかけとなることを目指して、平成24年度から研修等を実施しています。

## 令和元年度の主な事業

6月	29日～30日	災害ボランティア週末合宿	(学生対象)
7月	24日	災害と企業ボランティアセミナー	(企業対象)
11月	10日	いしかわ学生防災フォーラム	(県民対象)

## 災害ボランティア週末合宿（6月）

**目的** 災害ボランティアの基本知識や実践的なスキルを学び、災害ボランティアのあり方について学生自らが考え、災害時におけるボランティアリーダーの人材育成に帰する。

日程：令和元年6月29日(土)～30日(日) 会場：キゴ山ふれあい研修センター  
参加者：学生41名（金沢大学、石川県立看護大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、日本航空大学校、金沢医療センター附属金沢看護学校、加賀看護学校、大原簿記法律観光専門学校金沢校）、その他事務局等9名

### 1日目午前

### 災害時の食事を考える

災害時の食事の現状や災害時に誰でもおいしく時短で調理できる「震災食」について、石川県栄養士会の方からお話を伺いました。普段から災害に備えることの重要性や心も体も元気になれる食事の大切さを学びました。

その後、ポリ袋を使った調理法で昼食を作りました。一度に何種類もの料理が簡単に作れ、貴重な水も繰り返し使えるため、災害時に大いに活用できそうです！



石川県栄養士会の方から調理方法を習ったあと、デザート（羊かん）を含む計4品を作りました

参加者の声



電気、水、ガスが止められている状況の中でいかにおいしくバランスよく食べるかが大切だと分かった。

今後、食料等を備蓄していつでも作れるようにしようと思った。

初めてポリ袋クッキングを体験したけど、美味しくて楽しかった。

1日目午後

## 災害ボランティアの基本

県下で災害が起こった際の対応や災害ボランティアの受け入れ・活動拠点となる災害ボランティアセンターの機能について石川県社会福祉協議会職員より学びました。

その後、被災地の様子や被災地でボランティア活動を行う際の注意点について、日本赤十字社石川県支部防災ボランティアリーダーから学びました。



1日目午後

## 災害時の衛生環境

NPO法人日本トイレ研究所の加藤さんを講師に迎え、災害時にトイレ環境が及ぼす影響や災害時のトイレの実態、災害時のトイレ環境の大切さについてお話いただきました。

後半はグループごとで「仮設トイレを設置する際に配慮すること」「子ども・女性・高齢者・障がい者に配慮すること」について話し合い、発表しました。災害時に配慮することについて考える機会になりました。



班ごとに、まとめた意見を発表しました

災害時、水洗トイレが使えない場合に備えて、実際に携帯トイレを使用してみました



子ども・女性・高齢者・障がい者に配慮することでは「手すりを付ける」「荷物の置き場を作る」「親子で入れるよう広くする」等の意見が出ました。



仮設トイレを設置する際に配慮することでは「避難所から遠すぎず、近すぎず目の付くところに設置する」「男女別で設置する」「安全性の確保」等の意見が出ました。



加藤さんと参加者で写真を撮りました

1日目 夜

## 災害時に使える応急処置法

夕食後は参加者全員で体を動かしました！  
ストッキングを使った腕の固定、毛布を使った担架など、身近なものでできる応急処置方法をはじめ、土のう袋の使い方等についても楽しく学びました。



色々な方法が紹介されるたび、参加者から感嘆の声が上がりました



参加者の声

タオルの止血法等災害時だけでなく日常生活でも役立つ技術を学べた。

応急処置はしたことがあったが、ストッキングがあればほど使えるとは知らなかった。

2日目午前

## 災害対応のジレンマ

災害現場で起こる「選択の場面」を想定したクロスロードゲームを行いました。各自がYES、NOの判断をしていき、グループで意見を交換しながら、一筋縄ではいかない災害対応について理解を深めました。

【問題】あなたはボランティアリーダーです。携帯メールで大雨注意報が出たのを知ったが、今はまだ降り始めていない。ボランティアセンターからの連絡もない。…作業を続ける？ 中断する？

作業を続ける人は「YES」、中断する人は「NO」カードを出した後、なぜそう思うのか、みんなで話し合います



参加者の声



グループで共有することで新たな発見があり、とてもためになった。

多種多様な意見があり、自分が考えもしなかった考え方を得ることができた。

2日目午前

## 振り返り

研修で学んだ災害ボランティアリーダーになるために必要な要素やリーダー像にクロスロードの結果を取り入れて、「ボランティアリーダー3か条」を導き出しました。

柔軟な対応、被災者の気持ちを尊重、正しい知識と判断力、平時からの備え、創造と想像、躊躇せず行動する度胸等それぞれのグループの個性が出ました。



## 災害と企業ボランティアセミナー（7月）

目的

県内企業の災害ボランティア活動への理解を促進し、企業と災害ボランティアとの関わりを考える。

日程：令和元年7月24日(水) 13時30分～15時 会場：石川県庁1002会議室

参加者：15企業・団体 16名、一般参加者3名

内容

県の災害時の体制・社会福祉協議会の役割・県内企業の災害支援事例の紹介を行った。



三谷産業株式会社の櫻田さんからは、被災地の仮設住宅で戸別訪問した事例の紹介と被災地支援活動までの準備や調整、配慮したこと等についてお話いただきました

参加者の声



企業の地域貢献の良いお話が聞けてとても参考になった。

他の企業の話も聞いてみたい。

# いしかわ学生防災フォーラム（11月）

## 目的

共助の中心となる自主防災組織において、若い世代に防災や災害ボランティアの知識や経験を継承し、自主防災活動の活性化を図るとともに、大学、自主防災組織等の組織の枠を超えた交流による活動の活性化を図る。

日程：令和元年11月10日(日) 13時～16時  
会場：石川県立音楽堂邦楽ホール 参加者：約250名

## 第1部

### 講演

共助体制への若者の参加をいかに進めるかをテーマに学生と地域の防災上の連携の現状と課題、国に先行した大学の取り組み事例等についてお話いただきました。



関西大学 社会安全学部  
教授 永田 尚三 氏

### 講演内容

- 地域防災上の現状と課題  
自主防災組織・消防団の高齢化、地域コミュニティの弱体化
- 関西大学の社会安全隊（2011年～）の取り組み  
消防職員OBからの救護活動の指導、各種防災イベントへの参加、災害時の災害ボランティア活動の実施、地元消防団との交流等

若者を受け入れた消防団の活性化、  
消防や防災に精通した人材のすそ野の拡大に繋がる試み

## 第2部

### パネルディスカッション

県内で防災活動や災害ボランティア活動に取り組む学生団体による活動報告を行いました。



◇金沢大学ボランティア  
さぼーとステーション



◇金沢工業大学防災・  
減災プロジェクトSoRA



◇金沢星稜大学アウト  
ドラスポーツラボ



◇北陸学院大学よりそい  
の花プロジェクト

その後、これからの学生と地域の連携のあり方についてパネルディスカッションを行いました。



◇学生が地域に飛び込むためには  
池田) 学生の皆さんが、自分たちの活動を教職員や学校関係者にも伝えてほしい。大学は地域、行政とつながっているため、大学を巻き込むことによって、大学と地域、行政、企業を結ぶ大きなきっかけとなる。  
◇学生が地域の共助体制の構築にどのように関わっていくか  
濱辺) 防災だけではなくバーベキュー等のイベントでも地域と関わり、密の濃い関係を築くことで、共助体制の構築につなげていきたい。  
木下) 地域の防災組織はマンネリ化、高齢化している。そこで学生に横穴を開けてほしい。これからの地域防災力の向上には女性も大切だが、学生の力が必要なので、平時も災害時も連携して活動を行いたい。

### ◆登壇者

- 村上 勝 氏 (石川県危機管理監室 次長)
- 永田 尚三 氏 (関西大学 教授)
- 池田 幸應 氏 (金沢星稜大学 教授、学生等災害ボランティア  
リーダー育成事業研究会 委員長)
- 田中 純一 氏 (北陸学院大学 教授)
- 木下 千鶴 氏 (防災士)
- 椿野 智之 氏 (金沢大学ボランティアさぼーとステーション)
- 濱辺 圭介 氏 (金沢工業大学防災・減災プロジェクトSoRA)
- 秋田 悠介 氏 (金沢星稜大学アウトドラスポーツラボ)
- 伊藤 康洋 氏 (北陸学院大学よりそいの花プロジェクト)



## 今年度の活動成果

県内学生を対象とした宿泊研修では、県内の9の大学や専門学校などから学部・専攻を超えて多くの学生が参加し、災害ボランティアの基本知識・心構えやスキルを習得し、意見交換を行うことによって災害に備える意識の向上、大学間を越えた交流も図られました。研修受講後には、台風第19号で被害を受けた長野県長野市でボランティアに参加した学生もおり、被災地での実際の活動に繋がりました。

また、いしかわ学生防災フォーラムでは、地域と学生とのつながりの重要性や共助体制の構築に向けての課題を学ぶことができました。

全ての事業を通じて、災害支援の現状を理解し、ノウハウを習得することはもちろん、地域で災害ボランティアを柔軟に受け入れることにより、地域防災力を向上させる取組みの必要性を、県民のみならずと共有することができたと感じています。

## 事業にご協力いただいた皆さま

- ・石川県栄養士会 橋本 良子 様、高信 雅子 様
- ・NPO法人日本トイレ研究所 加藤 篤 様
- ・三谷産業株式会社 櫻田 博美 様
- ・関西大学 永田 尚三 様
- ・北陸学院大学 田中 純一 様
- ・防災士 木下 千鶴 様
- ・金沢大学ボランティアさぼーとステーションの皆様
- ・金沢工業大学防災・減災プロジェクトSoRAの皆様
- ・金沢星稜大学アウトドアスポーツラボの皆様
- ・北陸学院大学よりそいの花プロジェクトの皆様

事業の実施に際しては、多大なご協力をいただきありがとうございました。



(順不同)

### ◆ 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

複数の大学や団体に所属するメンバーにより事業内容の検討及び結果の検証を行っています。

- 【委員長】池田 幸應 金沢星稜大学 人間科学部 教授
- 【委員】武山 雅志 石川県立看護大学 人間科学領域 教授
- 蜂屋 大八 金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 准教授
- 新田 雅道 公立小松大学 生産システム科学部 生産システム科学科 教授
- 古川 浩子 石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター 所長
- 北村 裕一 日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー
- 青木 美紀 石川県県民ボランティアセンター 専務理事兼事務局長

## 研究会ホームページのお知らせ

学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会ホームページ（URL <http://saivolustudy.sub.jp/>）では、事業の内容を随時更新しています。

こちらのQRコードからもアクセスできます→



石川 学生ボラ研究

検索

石川県 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

ホーム 事業の概要 事業の報告 研究会 活動助成 お問い合わせ リンク

事業の報告 活動助成

新着情報

最新記事

災害について街づくりフォーラム開催のお知らせ

主催：石川県立看護大学災害ボランティア研究会

<災害について街づくりフォーラム2019>が開催されます。

2020年3月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12

### ◆ ホームページの見方

#### 事業の報告

…過去に実施した事業内容をPDFで閲覧できます

#### 活動助成

…被災者支援活動を行う学生団体向けの助成金について案内しています

#### 新着情報

…研修などのお知らせを更新しています

#### 最新記事

…研修やフォーラムなど事業の様子を閲覧できます

是非一度ご覧下さい！